

Peace Creating Trip to New York

サウンドヒーリング協会理事長 喜田 圭一郎

2010年5月末ニューヨークに出張しサウンドヒーリングを行なっている医療分野の方々、セラピスト達や機器を購入頂いた方々にお目にかかり、サウンドヒーリングのピースクリエイティングネットワークを広げこれからやるべきことを確認して来ました。

今回の出張は目的が3つありました。1、サウンドヒーリングを米国の医療、健康分野に米国の方の手によって広げ、米国の方々の心の平和に貢献する。2、国連のWAFNIF (Culture of Peace) にサウンドヒーリング機器 (Healing Vibration 051) を寄贈し世界の平和に音で貢献する足がかりをつくる。3、今までお世話になっている方々に、私自身の手でサウンドヒーリングのトリートメントをさせて頂き、KITAサウンドヒーリングが創造する深い平和な心を共有し、未来のビジョンを共有する。の3つでした。

5年ぶりにミッチェル・ゲイナー博士(がん治療の名医、「音は何故いやすのか」の著者)ご夫妻とお会いし、夕食とトリートメントを通し心の絆をさらに深めることができました。ゲイナー博士は1999年より毎日、小型体感音響のサウンドヒーリングを全ての患者さんに行い、心と体の痛みを消し去り、自立して自己責任で生きようとする患者さんの魂を力強く援助されていました。他の病院で見放された患者さんも数多く来られ、人生に喜びを発見されていました。

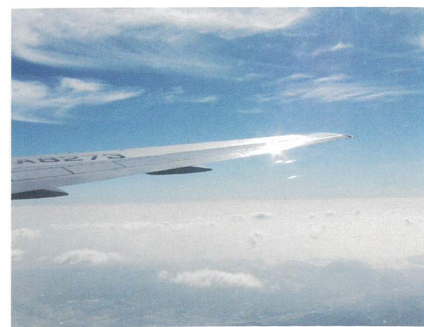
サウンドヒーリングセラピストであり鍼灸師のシャロン・シボターさんの拠点のペンシルバニアにも行き、チームを組んで医療活動している外科医のDr. Beth Dupree (breast cancer surgeon)や児童心理のDr. Roxanne Daleo (Psychologist Harvard University)、心理学の博士連Dr. Gloria hypnosis (Psychologist t) Ginny Caroselliさんにお会いし米国社会におけるこれからのサウンドヒーリングの役割について話し合いました。

またアリゾナやニューヨーク在住のセラピスト達や9・11で活躍した元オリーブ・リーフの関係者Stan Altman, Robert Callely, Clair Haagaさんとも交流を深めました。そして4年前日本でお会いした国連WAFNIF (Culture of Peace)のBen Shalomさんを訪ねHealing Vibration 051と屋久島の自然音を寄贈し国連の中で音によるPeace Creatingを始めていただくことになりました。

またルイ・アームストロング病院を訪ね音楽療法士の方々と交流、医療ジャーナリスト、ヨガの先生、サウンドヒーリングを利用いただいている方々との交流など予想以上の多くの方々にお会いする機会を得ました。

米国で活躍する様々な方にサウンドヒーリングをご体験頂き、米国の人々にサウンドヒーリングが今、必要とされていると、強く感じました。そしてこの多くの米国の方々との出会いと時間の流れ、そのものが平和を創造する旅となり、全てがスムーズであり、全てが調和的だったと心からお会いした方々に深く感謝する次第でした。感謝の意識は感謝の出来事を創造するものと改めて感じました。

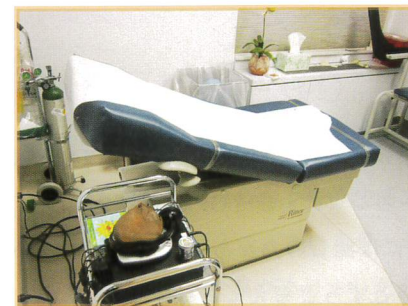
今アメリカのセラピスト達はアフガニスタンやイラクに戦争に行き、体と心に深く傷を負って帰ってきた、PTSDや線維筋痛症などに悩む元兵士達に音で社会復帰に向けた心と体の回復に取り組み始めています。平和な日本にいる私が今すぐできる事、「平和な祈り心」で応援をする、と決意した今回の旅は、サウンドヒーリングが新しい段階に入ったと感じる旅でもありました。無限なる可能性。



▶ゲイナー博士と5年ぶりの再会



▲ゲイナークリニックの温かい
雰囲気の受付



▲がん患者さんに1999年より一度も
故障せずに毎日使われている
Kitaサウンドヒーリングの機器



▲サウンドヒーリングセラピスト達と交流



▲心地よい待ち合い室



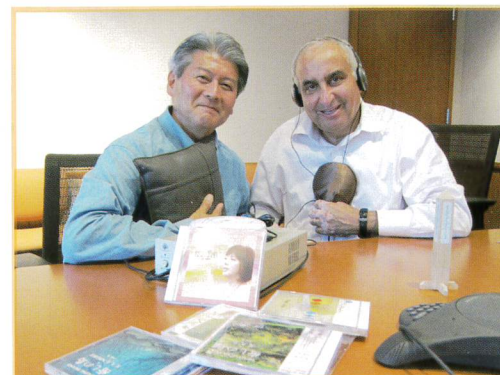
▲May peace be in your heartと
書かれた入口の鏡



▲Sharonさんの鍼灸院



▲右から外科医のBeth博士
心理学者のGloria博士
セラピストのSharonさん
ハーバード大学 児童心理のRoxanne博士
Roxanne博士の90才のお母様
心理アドバイザーのGinnyさん



▶国連WAFNIF Ben Shalomさんと面談



▶病院のロビーでピアノを
演奏していた



▲ルイ・アームストロング病院を見学